



Hiratsuka
Hadano
Isehara
Oiso
Ninomiya



KPSABE NAKA BRUNCH

70th Anniversary Magazine

創立 70 周年記念

一般社団法人 神奈川県建築士会 中支部

目次

支部長挨拶：1

会長・相談役 お祝いの言葉：2

中支部の沿革：3

70周年に寄せて（元役員・元支部長）：4-5

70周年に寄せて（副支部長）：6-7

70周年に寄せて（幹事）：8-9

70周年に寄せて（監事）：10

70周年に寄せて（関連団体様）：11

中支部 ここ10年の活動記録：12-15

ナナメ塾ヒストリー～この10年：16-19

70周年に寄せて（中支部エリア内賛助会員様）：20-21

数字で見る中支部・2012年～2022年 物故会員：22

中支部公式ホームページ・公式SNSのご案内：23

編集後記：24

【表紙写真】

上段左から 吾妻山公園（二宮町）・日向薬師薬師堂（伊勢原市）・県立秦野戸川公園風の吊り橋（秦野市）八幡山の洋館（平塚市）

下段左から 鳴立庵（大磯町）・ガラスのうさぎ像（二宮町）・雨岳文庫（伊勢原市）・五十嵐商店（秦野市）

【表紙ロゴデザイン】

湘南平展望台（平塚市）・はだの桜みち（秦野市）・大山阿夫利神社（伊勢原市）

大磯の海岸に集うアオバト（大磯町）・吾妻山公園の菜の花（二宮町）

中支部を構成する、3市2町のシンボルや特色をデザインに盛り込みました。

「わたしと中支部 ～ “奇跡” が “軌跡” となる～」



中支部長 矢野 高

皆様こんにちは。(一社)神奈川県建築士会中支部長の矢野 高です。
平素より中支部の活動にご理解、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

70年の中支部の歴史のうち、20年ほどが濃密なかかわりとなった、私と建築士会、中支部の出会いから今に至るまでのお話をしたいと思います。僣越ながらお付き合いいただけましたら幸いです。

1992(平成4)年の年が明け、まだ寒々しい風が馬車道のビル街を吹き抜ける中、前年12月に合格通知を頂いて免許申請した二級建築士の免許証を授かりに当時は北仲通にあった建築士会事務局へ足を運び、免許受領と同時に神奈川県建築士会に入会届を提出しました。

やがて会報誌が届き、私は「中支部」の所属になったことも知りました。勤務地や住所から特に指定がなければその勤務地または居住地の支部の配属になるという制度もそこで初めて知ることとなります。

まだ2級建築士に漸く合格しただけの覚束ないキャリアだった私にとっても「支部?」「委員会?」といっても少々遠い世界であって、30年後本会理事となり中支部長となった今の自分自身など全くイメージできないどころか、この仕事が自分自身(おそらく)生涯の仕事になるかどうかは当時はわかりませんでした。

その年の夏に青年委員会が主催する新入会員歓迎の集いに参加させていただき、当時委員長をお務めだった長瀬副会長や青年委員の皆さんにお会いし、やはり業界団体に入り第一線で活動されている方々の意識の高さや熱量の大きさに少々憧れを抱いたものです。

しかし建築士の入り口に立ったとはいえイチ小僧っ子である私。毎日の仕事に戻り、所長に叱咤激励を受けながら日々の業務に追われ、建築士会のことでも会誌「建築士」をパラパラとページをめくって自室に積み上げておく程度の日々でした。ただ、不思議と建築士会を退会するという選択肢はなく、その後も会報誌を読むだけのいわば「ROM専」と、いっても今の若い人には何の意味かわかるのでしょうか?ぜひ検索を)でした。

中支部の活動に初めて参加したのは1998年の3月、大磯の旧吉田茂邸見学会でした。これも当時の勤務先だった建築士事務所の所長が参加できなくなり急遽代理での参加でした。しかしその後、後述のように活動に参加するようになってから、そのときのことを覚えてくださっていた方が何人かいらっしゃいまして、ご縁の大切さに触れたものです。

2003年に自らの建築士事務所を立ち上げる際にあたり、あれこれ準備をしている最中、当時の支部長であり、私がお世話になっていた事務所の所長とも親しかった田代茂夫さんから「絶対プラスになるから、建築士会の活動をやってみない?」とお誘いを受け近々発足する「CPD制度推進・運営特別委員会」(現講習・スキルアップ委員会 CPD 部会)に支部推薦の委員として出向くことになり、さらにその流れで支部幹事もお引き受けすることに、そこからナナム塾塾頭、理事…と現在の立場へと歩みを進めることとなります。

2017年より8代目支部長の役割を拝命し、自分の建築士としての歩みの中で建築士会という存在によってもたらされた数多くの方々との出会いは間違いなく私自身の財産です。

コロナ禍により余儀なく生活様式の変化を強いられるという、予想だに出来ぬ事象がこの国を覆う今日(こんにち)ですが、そんな中でも、また新しい出会い、人の輪の広がり、そこから起きる奇跡が、新しい軌跡となるよう、希望を持ってきていきたい。建築士会、そして中支部70周年を迎え、強くそれを所望致します。



「創立 70 周年に 寄せて」

(一社) 神奈川県建築士会
会長 **上原 伸一**

中支部の創立 70 周年、おめでとうございます。

神奈川県建築士会の 9 支部の中にあり神奈川県建築士会設立時にいち早く支部として設立されたと聞いておりますので、本会と共に歩んできた 70 年というところで慶びを共に分かち合いたいと思います。

この間、神奈川県建築士会の支部として精力的に活動いただき、多くの実績をあげられてきたことに感謝申し上げますと共に、この間尽力をいただいた歴代支部長始め多くの会員の皆様に敬意を表させていただきます。

また神奈川県建築士会ではこれまでの 70 年の活動を礎に、これからの「未来へ。」をスローガンに掲げ、様々なイベントを実施、11 月 22 日の記念式典を迎えることができました。これもひとえに各支部及び各会員の皆様のご尽力の賜物と感謝いたします。

近年、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻、自然環境の脅威等の中、私たちの取り巻く環境も大きな影響を受け、建築士の皆様も厳しい状況に置かれていることと思いますが、少子高齢化、空き家問題、脱炭素、SDGs などの社会問題も顕在化し建築士の役割も多岐に亘ると共に多様化し難しい立場になっていると実感しています。

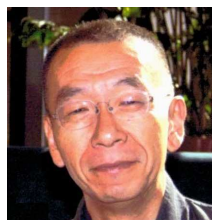
そのような中で、私たちは魅力ある建築士会、誇れる建築士を目指し、活性化のために委員会再編と会員増強には取り組んでまいりましたが、特に会員増強は各支部の協力無くしては成し得ません。

建築士会の発展のために今後とも中支部の皆様のご支援とご協力をお願い致します。

また中支部におかれましては、70 周年を新たなスタートとして、建築を通じ地域の環境、まちづくり福祉等に寄与され、社会に建築士の力を存分に発揮し魅力を発信し続けることを期待しています。

最後になりますが、中支部の益々の発展と会員の皆様のご健勝ご多幸を祈念し、創立 70 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

「感心させられたこと」



(相談役) **長田 喜樹**

支部創立 70 周年、まことにありがとうございます。中支部の皆さんとは、私が副会長在任中、毎年支部総会にお邪魔する機会が、数少ない接点のひとつだったのですが、ベテランから若手まで、バランスよくまとまった支部だなあとの印象を毎回受けていました。また、本会の置かれた横浜からは多少距離があるので、独立性が強いかと思いきや、他地域にもつながっていく開放性が感じられる、伸びやかな支部と感じました。

こうした支部の個性を具体的に示すものとして感心させられたことが二点。第一は、支部ホームページの発信力の強さです。他支部でもそれぞれ工夫して支部 HP を運用されていますが、洗練された Web デザインだけでなく、コンテンツの充実ぶりが素晴らしい。支部だよりを通じた日ごろの活動の告知や結果報告、総会資料の掲載など、支部の「今」に関する情報のほか支部 50 年史、60 年史の全文掲載によって支部の 70 年の歩みも知ることができます。

第二は、他の稿でも言及されるでしょうが、ナナメ塾の存在です。一般的な支部活動に重なる形で、老壮青男女の垣根を超えたネットワークが形成されていること。会誌さろんの 2004 年 9 月号に掲載されている「爆走 中支部超特急」は塾の主催イベント 4 件を紹介した記事ですが、テーマの選び方の絶妙さに舌を巻きました。

地元の歴史的建造物見学会、古参支部会員と語る会といったローカル色の濃いものから、横浜や県外に足を伸ばして、県内の著名建物や藤森・安藤の作品を見学する幅広さ。60 年史の齋相談役の寄稿ではナナメ塾の柔らかな活動ぶりが 2003 年の委員会再編の参考になったと書かれています。

奇しくも今年は 20 年ぶりの委員会大規模再編が進行中。中支部とナナメ塾が、こうした建築士会の活性化にも寄与していただくよう、心から祈念いたします。

■ 1952 (S27) 年 12 月

平中支部設立 初代支部長：吉野 秀雄

■ 1958 (S33) 年 4 月

中支部に名称変更 2 代目支部長：成瀬 正義

■ 1994 (H6) 年 3 月 3 代目支部長：坂田 輝興

■ 1998 (H10) 年 4 月 4 代目支部長：佐藤 四郎

ナナメ塾発足 初代塾頭：永田 美典

■ 2002 (H14) 年 5 月 5 代目支部長：田代 茂夫

ナナメ塾 2 代目塾頭：南野 英行

■ 2007 (H19) 年 5 月 6 代目支部長：松山 克己

ナナメ塾 3 代目塾頭：大谷 光紀

■ 2009 (H21) 年 6 月 大谷 3 代目塾頭急逝につき

ナナメ塾 4 代目塾頭：田代 茂夫

■ 2011 (H23) 年 5 月 7 代目支部長：澤田 晃一

ナナメ塾 5 代目塾頭：矢野 高

(以下、※印は他支部・委員会・他団体共催事業)

■ 2012 (H24) 年

5 月 60 周年記念式典・講演 平塚プレジール

5 月 よこはまラーニング 「根岸」

7 月 「地震と平塚の地盤」 平塚市博物館

8 月 「まどすじ講座」 市民活動センター

9 月 「市制 80 周年特別展」 平塚市博物館

10 月 「木材塗装セミナー」八幡山の洋館 ※

11 月 研修旅行 静岡 石水館・興津ほか ※

■ 2013 (H25) 年

1 月 「箱根板橋ミニ探訪」 小田原市板橋地区

2 月 「活動交流会中支部大会」 二宮町民セ

3 月 「小田原花街老舗巡り」 小田原市 ※

5 月 「大磯の災害」 大磯町郷土資料館

5 月 よこはまラーニング「日産横浜第一号館」

6 月 「続・地震と平塚の地盤」 平塚市博物館

8 月 「内田さん結婚お祝いの会」

8 月 「県庁本庁舎公開ほか」 神奈川県庁

10 月 研修旅行 東京 丸の内・谷中ほか※

■ 2014 (H26) 年

5 月 総会併催講習会 「温故知新・瓦を知る」
八幡山の洋館

5 月 よこはまラーニング 「大倉山記念館」

8 月 青年委製図試験研修協力 弘法の里湯

9 月 「歴史及び現代建築バスツアー」 ※

11 月 研修旅行 埼玉 飯能・吾野ほか ※

■ 2015 (H27) 年

2 月 見学会「秦野クリーンセンター」 ※

5 月 総会併催講習会 「被災地相談員研修」
市民活動センター

5 月 よこはまラーニング 「創エネハウス」

6 月 「改正省エネ温熱環境設計」勉強会 ※

7 月 「妙誠寺上棟式見学会」 愛川町

9 月 「濱田貞夫個展鑑賞会」 平塚市美術館

10 月 「公図・登記・測量のキモを学ぶ」 ※

11 月 研修旅行 東京 築地・浅草ほか ※

12 月 「秦野まち歩き」※景観整備機構委共催

■ 2016 (H28) 年

2 月 「JIA 神奈川小田原シンポジウム聴講会」

5 月 総会併催講習会 「建築ラーニングモア」

5 月 よこはまラーニング 「旧伊藤博文別邸」

7 月 「自動消火設備見学会」 モリタ宮田工業

8 月 「調査士の為の建築法規」 ※4

10 月 研修旅行 大山阿夫利神社・日向薬師 ※

11 月 「かながわりハビリ研修会」 ※

■ 2017 (H29) 年

2 月 「JIA 神奈川小田原シンポジウム聴講会」

5 月 8 代目支部長：矢野 高

5 月 総会併催講習会「昼のこと」 清田書店

5 月 よこはまラーニング 「日吉の森」

6 月 「二宮まち歩き」※6

6 月 関ブロかながわ箱根大会

10 月 研修旅行 埼玉・茨城 ポラテック ※

■ 2018 (H30) 年

1 月 セミナー「地域防災について」 ※

1 月 厚木望月商店見学会

3 月 4 支部合同バス研修旅行 3M ジャパンほか

5 月 総会併催講習会 「建築物省エネ法」

5 月 よこはまラーニング「横浜地方气象台 R」

10 月 研修旅行 静岡 天竜・掛川 ※

■ 2019 (H31/R1) 年

3 月 平成最後の建物探訪「大磯旧吉田茂邸」

5 月 総会併催講習会 「建まいと照明の話」

5 月 よこはまラーニング「横浜三塔再発見」

10 月 研修旅行 静岡 韮山・沼津・三島

11 月 「和の空間見学会」伊勢原雨岳文庫 ※

■ 2020 (R2) 年以降 コロナ禍により活動自粛

「中支部 70 周年に寄せて」

相談役 石綿 誠

昭和 45 年 4 月に平塚市役所建築家に奉職し定年までの 37 年間建築行政に無事に携わってきました。その中で、平塚市は法律上の特定行政庁ではなく、通常の一般行政庁であったことから、市が行う建築行為は確認申請書を県建築指導課に提出し、確認通知後、工事を行っていましたが県の政策・人口 10 万人以上の県内市には「特定行政庁」に移行するよう権限移譲があり、その協議の結果、平塚市、小田原市及び秦野市と同時に昭和 60 年 4 月 1 日以降法律に基づく特定行政庁となり現在に至っています。その際、平塚市では街づくりの一環を取り入れて 4m 未満道路幅員を無くすことを目的として 4m 未満の道路幅員の物件は事前に「平塚市狭隘道路整備要綱」に該当させ協議済が無いと、確認申請書を受理しない手段を採用しました。このことは当時上級官庁から意見が出るのではと、おおいに心配したのですが何もなく取り越し苦労に終わり安心した次第でした。この 4m 未満道路幅員の買い上げ制度は全国で初めての制度となりました。

中支部 70 年は人生で例えると「古希」に当たり祝う年となり、中支部も同様な時期となり、その時をおおいに祝い、これからも士会の活動を継続し良い方向に歩んで行きましょう。また、皆様のご健勝と益々の発展を祈念いたします。 感謝

「楽しい思い出として」



5 代目支部長 田代 茂夫

建築士会中支部の歩みを振り返ってみると自分の人生とほぼ同じ歴史があったことを再認識しました。はじめてのかかわりは 50 年ほど前と思います。当時桜木町にあった古いビルでしたがどんな用事で行ったかも忘れてしまいました。その後も設計業務に携わることもほとんどなかったため毎年届く建築士会中支部の総会案内はスルーしていたのです。ある時自分の所属支部の総会に行ってみようと思いを決して会場である旧平塚市民センターに行ってみました。会場にはどこかの会社の重役会議のような雰囲気が一瞬気が引けたのが思い出されます。ところが会場の皆さんは若い会員が参加してくれたことをとても喜んでくださって懇親会では「これからは若い者の時代だ！」と大変なもてなしを受けたのです。その時参加した 2、3 人の同年代の会員と意気投合し毎年の総会が楽しみになりました。その後次第に若いメンバーが増え、活動が「ななめ塾」へと進化をしていったのです。ななめ塾は定期的な勉強会から見学会、研修会と多方面に活動をし、機動性もありました。会議の後に市内で焼き鳥やカニをつまみながら意見をぶつけ合ったり、研修会では酒蔵見学や古民家を見ながら蕎麦を味わったりしたことなどが楽しい思い出として心のアルバムにしまわれています。50 周年の時には有志のメンバーと記念誌を手作りしたことや徹夜で、横浜ゴム記念館のペーパークラフトづくりをしたことは懐かしい思い出となっています。いま考えると本当に個性的なメンバーに恵まれたものだと思っております。建築士会とのかかわりもほとんどなかった自分が支部長としていろいろな活動をさせていただき、これまで支えていただいた多くの先輩や仲間の皆様にあらためて感謝を申し上げたいと思います。

「おめでとうございます」



中支部二代目ナナメ塾塾頭

南野 英行

この度は一般社団法人神奈川県建築士会・中支部の創立 70 周年誠におめでとうございます。

今年 61 歳になった私が建築士会の活動に参加するようになったのは伊勢原市内で父親と設計事務所を営んでいたまだ 30 代の頃。

29 歳でどうにか一級建築士資格は取得したものの、建築の専門教育を受けてこなかった私は徒手空拳、何をどう学んで実務に活かせばよいか解らないまま日々を過ごしていた気がします。

幸い、父親の代から事務所協会員としてお世話になった先輩や同世代の方々が建築士会・中支部で活躍されていたことから、私も学びの機会を得ることが出来ました。

その場は、当時関東ブロック大会を契機に中支部有志により自然発生的に生まれた【ナナメ塾】(年齢の縦軸、職域の横軸を「斜め」に貫く「第三の軸」⇒ナナメ軸⇒【ナナメ塾】！)

年齢や肩書を忘れフラットな参加者が自由な発想と議論で面白いコト、やりたい人が好きに何でもやってみよう！をモットーに多くの見学会や遊び企画を行いました。

力不足のまま勢いだけで塾頭を引継ぎましたが、今もナナメ塾で得られた友人、名作建築に触れた感触と感動、日本各地の風土、知見や知識などが、今は指定確認検査機関に身を置く私を造ってくれたと感謝しています。

これからも神奈川県建築士会、中支部及び会員の皆様が、そしてその活動の中核を担って頂けているナナメ塾の方々が創立 100 年を目指して発展されますよう、また私の後を引継ぎながらも志半ばで逝かれた三代目大谷塾頭の冥福を心からお祈りし、支部創立 70 周年のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

「中支部創立 70 周年」



中支部会員 白瀬 百合子

中支部創立 70 周年 おめでとうございます。

私が入会して約 25 年になるようです。入会時は田代支部長でした。その後、澤田支部長、現在矢野支部長となっています。最近は支部の活動に参加しておりませんが、役員等皆様お元気ででしょうか？

入会前に研修旅行にお誘いいただき、参加し入会しました。その後、役員となり青年・女性委員、会計、中支部だより編集などを担当させていただきました。

青年・女性委員会では、関ブロ神奈川大会がメインイベントで神奈川大学にて行われました。両親も参加をしてくれたのですが、父が、「夜中までかかって一生懸命、何をやっているのか見に来た。」とっていました。毎月、横浜での会議があり、会議の後食事をして帰宅時間が午前 1 時となっていました。それまで、何も口をださずにて、心配をかけていたのだと当日に理解しました。大変なこともありましたが、委員の方々と共に、また支部の方の参加、協力があり、実行できたことに感謝しています。

中支部の年間の活動として、総会、よこはまラーニング、残暑払い、研修旅行、忘年会、講習会、がありました。他にも様々活動があります。

また、研修旅行は毎年、行先が魅力的で、何度も参加させていただきました。行程が綿密で、いつも到着時間が正確なのに驚きました。

今後も中支部の活躍を願います。

「これまでの 10 年・これからの 10 年」



(副支部長) 田中 敦史

10 年前、中支部創立 60 周年記念事業が開催され、私は企画運営の中心に居ました。当時は中支部の活動に参加するようになってまだ 8 年目くらいだったため、今年で 18 年もの間中支部の運営に関わってきたこととなります。早いものです。

この間社会情勢は大きく変化し、建築を取り巻く環境や法制度も変わってきました。新型コロナ等の影響もあり、仕事の仕方も急速に変化しました。確認申請等でも押印が不要になったり、それまで当たり前だったことが転換したことで業務に与える影響も大変大きかったと思います。

今後の 10 年を考えると、住宅ひとつ取っても 4 号特例の廃止、環境性能の向上やその義務化等の多くのテーマや難題が我々建築士に課せられる事になり、個人で事務所を運営している立場からすると常に不安との闘いのように思います。

おそらくこの業界で仕事を続ける以上はこのような変化やそれによる不安等は拭い去ることはできないと思うのですが、だからこそ建築士会はじめ様々な業界団体等で行われる講習会等へ参加し、スキルアップを図ることが重要だと思っています。

講習会等に限らず中支部では私自身の疑問や知りたい事を口に出してみると、何かしらのリアクションがあり、時にはそれが大きなうねりとなって、講習会や見学会のテーマになる事もありますし、業務上のパートナーとなる事もあります。誰もが気軽に参加でき知的好奇心を満足する助けになる、それが中支部の強みであり魅力だと思います。

これからの 10 年も常に知的好奇心を忘れず、中支部の仲間たちと建築の世界と言う大変な道のりを歩んでいきたいと思っています。そしてまだ中支部の活動に参加した事が無い方も、気軽に参加してみてください。きっと素晴らしい出会いがあると思います。

「わたしの中支部」



(副支部長) 泉田 美穂

中支部 70 周年おめでとう！！

60 周年でも何か書いた記憶が・・・

あれからもう 10 年経っちゃったの？

こうして原稿を書いていると月日が経つのは本当に早いものだなあと感じています。

私が初めて一人で総会に参加した時、みんなが喜んで迎えてくれたことを鮮明に覚えています。

『昔は新入会員にカニをご馳走したんだよ』

これはもっと良く覚えています。そのうち私もご馳走になれると信じて・・・

私的にはこの 10 年間色々なことがありました。

勤めていた会社を辞め独立したし、3 番目の娘も出産しました。独立をするときは支部の先輩や仲間が一番最初に相談して、アドバイスを受けたり励ましの言葉を貰ったり。(懐かしい・・・)

みんなに会える役員会が楽しみで、終わった後に仕事で分からないことや、私のアホな質問にもみんなが真剣に答えてくれることが支えになっていました。

しかし 3 年前にコロナウイルスが発生してからはパソコンの画面でしかみんなと会えません。

ZOOM は便利ですが熱量が伝わりにくく寂しい思いをしています。早く以前のように当たり前にもみんなと会える日が来ないかな。

なんだか中支部へのラブレターのようになっちゃったけど他のみんなも同じ気持ちだと思います。

次の 80 周年まで世間は良いことも、悪いこともたくさんあるでしょう。

それでも中支部は変わらず、いつでも私に寄り添っていてくれる存在であって欲しい。

微力ですが頑張るから 80 周年のお祝いの時も中支部の一員でいさせてね！！

「建築士会入会のキッカケ」

(会計) 吉川 卓也

この度は、『支部創設 70 周年』おめでとうございます。私の神奈川県建築士会入会が、ちょうど 10 年前の事でした。入会直後に創設 60 周年記念式典に出席させて頂きましたが、当時の事がつい最近の出来事のように感じられます。入会当時の私は建築士の資格を取得してから、既に 6 年が経過しており会社員として建築の仕事に携わりながら、将来は建築士として設計事務所を開設するという目標を抱き続けている時期でも有りました。そんな時、建築士会の存在を思い出し、そのきっかけ作りになるのではと興味を持ちましたが、会に所属されている多くの方々には、建設会社の経営者やスタッフを多く抱える設計事務所の代表者であるとの思い込みが有り、なかなかその先の一步を踏み出す事が出来ずに数年を費やしておりました。会社員当時、営業として外回りをする時期が有り、当時挨拶回りを続けていた工務店の社長に建築士会には建築に携わる様々な職種の方が集っている事を聞かされた事がきっかけで、その門を叩く決意をした事を記憶しております。その後、紆余曲折を経ながらも設計事務所を開設し今も尚、業を続けておりますが、思い返してみると建築士会入会という出来事が、私の人生で大きな分岐点で有った事は、疑いようの無い事で有ります。もしも、私と同じ様に入会への一步をなかなか踏み出せない方が居ましたらこの様なエピソードを一つの参考材料として新規入会のきっかけとして頂けたら嬉しい限りです。現在、支部運営に会計としてお手伝いをさせて頂いておりますが、微力ながらもその役割が成り立っているのは、周りの皆様の後ろ縦が有った事です。これからも支部の仲間とともに先輩方が築き上げてきた長い歴史に新しいページを作る事に誇りを持ちながら活動を続けたいと思います。

「在りし役員を忍ぶ」



(幹事) 齋藤 清

10 年ひと昔、あっという間に 70 周年記念の日を迎えました。とどまることのない時代変化の渦中、建築スキル更新はまだまだ続きます。追いつくのが精一杯で、いつしか自らの老いを感じるようになりました。建築士人生を 50 年とすれば終焉です。次世代の建築士に何を残せるか、何をなすべきか自問自答の葛藤が続きます。歴代の中支部役員が残した足跡を語り継ぐことも自分のできる周年事業の役割かなと思います。私の知るこの 10 年に惜しまれてお亡くなりになった役員をご紹介します。

ナナメ塾「永田美典 初代塾頭」建築士の興味をそそる研修会の企画・運営が従前の中支部に活力を与えてくれました。戦後 GHQ 占領下の基、わが国独自の建築基準法ができた経過を学ぶ研修会を鮮明に覚えています。平塚市議員になってからも仲間建築士の意見、街づくり・行政への提案・建築業界の運営・問題点など積極的に聞き届けてくれました。

宴会の「**ノの内海亮洋監事**」38 代続く内海工務店の社長。二宮町の業界を代表する立場でありながら、穏やかな存在感が役員会・会員相互間・研修会・懇親会の雰囲気づくりに一役買っていました。内海さんの手締めが定番のお開きでまとめ役でした。

本会 CPD 委員会の中枢・中支部役員「**お酒の好きな土井幹夫さん**」横浜市役所の元行政マン。白熱する役員会議では適格な着地点に軌道修正する発言で何度も救われました。ドライクリーニング店の調査業務にあっては、ペアを組む会員一人ひとりにきめこまやかな指導で助けられました。将来の「町場建築に係る技術者の育成・工務店」の存続に最後まで心配していただきました。

大手ゼネコン OB で「**アマチュア写真家の濱田貞夫さん**」中支部全ての事業・集合写真には決まって濱田さんは写っていません。(次頁へ)

構造偽装事件後の 07 年 6 月 20 日建築確認厳格化に対応するための勉強会を夜遅くまで濱田さんの事務所でやりましたね。

回数を増すごとには参加者が増え、座る場所もないほどになっても快く受け入れてくれました。薮毛大日堂保存会との交流にも積極的に参加していただきました。

今日の礎を築いていただいた多くの会員・役員の方々に感謝申し上げます。 合掌

「次代を見据えて」



(幹事) 内田 幸夫

創立 70 周年、おめでとうございます。

私が建築士会に入会したのは、15 年くらい前だったかと記憶しています。右も左もわからない中、中支部のナナメ塾の存在を知りました。ナナメ塾や支部活動を通して、様々な学びを得ることができました。また、多くの仲間とも知り合うこともできたのも建築士会のおかげだと思っています。

支部のバス旅行などは、普段自分では行く機会のない他のジャンルの建築を学ぶことができました。新型コロナ蔓延の影響で、支部のバス旅行が開催されていませんが、また、仲間とともにバス旅行に行ける日が早く来ることを切に願います。

さて、私は建築士会の中でも稀な社寺建築業を主としております。宮大工として培った技術と知識を活かし、社寺建築のみならず、茶室等の数寄屋建築の新築から、古民家や洋館等の歴史的建造物の保存活用にも務めています。

そうした歴史的建造物や文化財の保存をしていくためにも、宮大工の使命は後継者育成という信念のもと、弟子の育成にも力を入れており、20 代で現場を任せられる弟子が数名育っております。残念ながら大工の業界では、資格は不要と考える方も多くいますが、私自身は一級建築士を取得することにより信頼を得て、仕事の中を広げることができ、今があると実感しています。弟子たちにも、自分の経験を話し、将来の可能性を広げるためにも、建築士の資格取得を積極的に促しております。忙しい修行の合間に勉強をしている姿を見ると、頼もしく感じます。毎年数名が資格を取得しており、やがて彼らも建築士会に入会し、建築士会を盛り上げてくれるものと期待しております。

現在、鎌倉市材木座に所在する、浄土宗の大本山である光明寺にて、重要文化財の大殿の保存修理に従事しております。元禄 11 年 (1698 年) 建立の大殿の工事は半解体修理で、令和 2 年から工事に着手し、現在は解体工事を進めています。解体後には部材の繕いをしてから組立てをし、令和 10 年の竣工を目指しております。伝統建築の魅力を皆様へ発信するのも我々の務めだと思っています。いずれ機会があれば見学会等を企画できたらと思っています。

「70 周年の内所属は直近 5 年間ですが・・・」



(幹事) 滝口 喜昭

一級建築士となった 1988 年は結婚した年であり、また、秦野から江田に居を移した年で中目黒の大手土木コンサル第 4 事業部建築部に勤務していました。当時は、親会社であるスーパーゼネコンの原子力設計部の某原発 1 号機廃棄物処理建屋の構造設計（経産省原子力委員会資料作成等）を 4 人で半年程度掛け行い、その後、超高層ビル構造設計（高層評定物件）を十数棟やダム・港湾・高速道路・モノレール等の土木施設関連建築を対象に、日本全国の物件で構造設計を行いました。神奈川県内では、金沢シーサイドラインの駅舎や某大手企業の箱根保養所程度しか構造設計の関与が無く、神奈川県建築士会との繋がりは皆無で、入会は全く考えませんでした。

母が亡くなり 1995 年に父がいて実家のある秦野に居を戻しましたが、知り合いもおらず雇われ構造設計部部長として、厚木・新宿 2 事務所で厚木周辺の意匠事務所、2 つのスーパーゼネコン本社構造設計部等や以前勤務の大手土木コンサル等を主な顧客としていました。しかし、地元で根ざすことが出来ず 2002 年に独立し、仕事で知り合った元土木エンジニア（大手土木コンサル出身）の女性にパートとして手伝ってもらいながら、構造設計や耐震診断・耐震補強設計を中心に構造設計事務所を始めました。

神奈川県建築士会入会は耐震偽装事件後の 2006 年に構造適判制度の受験資格が建築構造士と構造設計専攻建築士となり、JSCA は入会済でしたが構造士では無く、構造設計専攻建築士登録を行うために必要に迫られ、建築士会に入会した次第であります。

入会時は中支部所属でしたが、2 か月程経って県央支部支部長の依頼で移籍し、副支部長まで経験しました。5 年前の 2017 年に中支部に戻り、矢野支部長から依頼を頂き、幹事に就任となりました。

私の中支部所属はまだ 5 年であり、いつまで出来るか分かりませんが、次なる 80 周年へ向け、更なる発展・飛躍のお手伝いが出来ればと思っています。

「支部創立 70 周年に寄せて」



(幹事) 深谷 美登里

中支部創立 70 周年、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

建築士会に入会した当初、当時の支部長さんが直々にお電話で支部の活動に誘って下さいました。参加してみると、緩やかにつながりながら時に助け合い、支え合い、切磋琢磨する建築士の仲間が集っていることを知ることができ、大きな刺激になったことが今でも懐かしく思い出されます。

数年前からは支部幹事を任せていただけていますが、私は土地家屋調査士との兼業であり、そのことが何かお役に立てばとの思いもあり、お引き受けしました。まだ 1 度しか実現してはいませんが、講師を相互に派遣し、お互いの業務を補う知識を得る講習会を提案し、開催しました。それぞれに自身の業務としては当然と感じることも、実は他士業からしてみれば「目から鱗」の発見であったり、新たな気づきも得られたりしたのではないかと感じました。

個人的には、建築士の視点で防災の啓発活動をしています。我が家には元保護犬がいますが、災害が起きれば彼女も被災します。最近は「同行避難」と言って、どうぶつ家族（ペット）を伴って避難することが推奨されているため、避難所に飼い主とともに避難するケースも増えています。その時に一般避難者の方々の迷惑にならないようにしなければなりませんし、彼ら（ペット）を守るには、そもそも自宅の安全対策が何よりも大切です。飼い主が正しい災害対策を知り、実践することが重要になるため、神奈川県動物愛護推進員の立場で建築士の知見を織り交ぜつつ、行政の啓発のお手伝いをしています。一建築士として、これからも社会貢献をしていきたいと思っています。

末筆ながら中支部の益々の発展を祈念いたしますとともに、今後も支部役員としての責務を果たしてまいりますと存じます。

「70周年を迎えて思う事」



(監事) 金子 孝

思えば60周年記念の前年に東日本大震災が起きました。それから10年間平穏な日々が過ぎるのを願っていましたが、2年前から新型コロナウイルスの感染が始まり、今年2月にはロシアのウクライナ侵攻、気候変動による災害は後を絶ちません。この10年を誰が想像できたでしょうか？その中でも中支部の事業に多大な影響を及ぼしたのはコロナ禍でした。

この原稿を書くに当たり中支部ホームページの活動報告を閲覧しました。よこはまラーニング、ゲリラ塾、他支部との共済事業そして秋の研修旅行などなど、どれも懐かしくまたこんなに沢山の事業をやっていたのかと改めて感心いたしました。

私は一昨年まで会計担当をしており、これらの事業に関わってまいりましたが、ここ2、3年はコロナ禍のため事業が思うように出来ず、2019年秋の静岡へのバス研修旅行を最後に途絶えております。特にバス研修旅行は建築士会として特別にみられるものもあり、毎年楽しみにしておりましたのでとても残念でなりません。

昨年からは監事の役を仰せつかっておりますが、会計監査を行うにも事業がほとんどない収支内容では監査もさみしいものがあります。早くコロナ禍が収まり再開できればよいと思いますが、このような中でもできる事業というものを探っていく必要があると思っております。事業は会員の増強、会員同士の交流、スキルの向上に大いに役立つものでありますし、中支部の魅力でもあります。

矢野支部長のもと知恵を出し合い、中支部らしいナメ塾らしい事業を再開して中支部が発展することを切に祈ります。

「この10年の大きな変化」



(監事) 澤田 晃一

中支部創立70周年おめでとうございます。この10年の劇的な行動形態の変化を建築士会中支部を中心に一般社会も含めて記したいと思います。変化の原因は世界中の人々が嫌がり、殆どのことに冷水を浴びせた「コロナ渦」です。

まずは会議です。ある日突然、支部役員会がZOOMを利用したビデオ会議になりました。非常事態宣言が発出され、人の集まりに行動制限がかけられた為の自主的対応です。パソコンに映し出された役員と画面越しに話すのに戸惑いはありました。しかし、会議の場所を選ばないという利点もありました。今後も中支部に限らず一般社会でもビデオ会議が基本になっていくのではないのでしょうか。

次に講習会・勉強会です。中支部ではコロナ渦以降開催されていませんが、本会・委員会の講習はオンライン講習が多くなっている様に思います。建築士定期講習も各団体・登録機関はオンライン講習が主流になっています。国交省の法改正講習や各企業の製品講習などもオンライン講習が主流です。動画配信を利用したオンライン講習は時間・場所を選ばないので、今後も続いていくと思います。

話は外れますが、検査機関への申請・届出もネット申請が多くなっていると思います。曜日・時間・場所を選ばないのが利点なのでしょう。行政への申請・届出も郵送受付・副本返送を行っている役所が多くなってきています。

最後に研修旅行・見学会です。中支部では予定していた事業は中止になり、企画自体の中止を余儀なくされています。本会・委員会も中止事業が多数あったと思います。この事業だけはネットという訳にいきません。多くの人が集い、同じものを見る・触れる・感じるそして感動・感激を共有する。それ故に各人に思い出として残る。その根底にあるのは「人の温もり」だと思います。早くコロナ渦が終わり、親睦会も含めて事業が再会されるのを祈ります。

「祝 辞」



神奈川県建築士事務所協会
中ブロック長

黒部 光司

この度は神奈川県建築士会中支部が創立70周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

中支部の活動の中で印象深いのが蓑毛大日堂に係る様々な取り組みです。文化庁の「地域伝統文化総合活性化事業」に選ばれて継続的な取り組みが実り、国の登録有形文化財に指定されました。今はNPOはだの大日堂保存会に受け継がれ地域に根差した活動が行われています、中支部皆様の活動に深く敬意を表します。

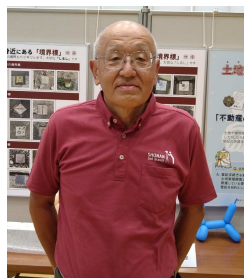
また、ナナメ塾は何物にも束縛されない自由なSDGsに繋がる活動だと思います、ますますの発展をお祈りいたします。

昨今はコロナ禍に加え建築基準法改正、建築物省エネ法、SDGs、消費税インボイス制度、と建築士に係る仕事に様々な社会変革の波が押し寄せています。建築士として知識、技術を高めると同時に、社会変革に応じた建築設計事務所の在り様を探求しなくてはこの波を乗り越えられません。

建築士会、建築士事務所協会それぞれの団体でこれらの課題に対して研修会等が開かれておりますが最後は人と人の繋がりが大切であり、団体の枠を超え各自の持っている能力・技術・情報・を交換し合い、建築の仕事に携わっていけるように努力したいと思っております。

コロナ禍で途絶えている共催のバス見学研修を復活させ交流が盛んになることを期待しております。最後に神奈川県建築士会中支部皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

「支部創立 70 周年に寄せて」



神奈川県土地家屋調査士会
湘南第二支部長

大塚 和博

この度は、神奈川県建築士会が創立70周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

我々土地家屋調査士会と建築士会の設立はほぼ同時期であり、今日までお互いに成長し発展を続けてまいりました。土地家屋調査士と建築士は業務上では常に密接な関係にあります。先日も知り合いの建築士さんから測量の依頼を受けましたし、建物の表題登記を頼まれることもたくさんあります。したがって両方を兼業としている方が大勢いらっしゃると思います。

私は一昨年に自宅を新築しました。これから人生の終盤を迎える時期であり、いわば終の棲家となる家でした。担当の建築士さんは女性の方で、とても明るくて細かいところまで良く気がつく方でした。私共夫婦の要望に対して良い悪いをはっきりとおっしゃり、適切なアドバイスをいただきました。そして老夫婦が生活してゆくための小さくて機能的で快適な家が出来上がりました。

家は「家族の幸せ」の象徴です。この家族の幸せに密接に関わる建築士の仕事は素晴らしい仕事です。土地家屋調査士の仕事と比べると圧倒的にお客様から「ありがとうございました。」と言ってもらえる仕事ではないでしょうか。私は大変羨ましく思います。

私達土地家屋調査士は、隣接との境界線を明確にして境界紛争が起こらないようにします。そして正確で正しい土地の図面を作成してまいります。建築士はそこにたくさんさんの「幸せの建物」を設計してください。

末筆ながら神奈川県建築士会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を心から祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

支部活動のあゆみ この10年

2012～2013年

■2012（平成24）年

5月19日（土） 創立60周年記念式典・講演



支部創立60周年記念式典・並びに記念講演を平塚プレジールにて開催した。

講演は「まちづくりの哲学」をテーマに、当時秦野市蓑毛の大日堂の保全活動にかかわっていたご縁からお引き受けいただいた東海大学建築学科専任教授の加藤仁美氏をご登壇。

式典・祝賀会には40名のご参加があり、懐かしい顔ぶれもお越しになり、盛会に終わることが出来た。

11月17日（土） 秋のバス研修旅行

「石水館・マッケンジー邸・宿場町興津」

研修旅行の訪問地として中支部では定番ともいえる静岡。途中エスパルスドリームプラザで美味しいしらす丼の昼食をはさみ、静岡市とその近郊の名建築群を巡る一日だった。

とにかくこの日は悪天候に見舞われ一部見学先を（颯田峠）オミットするほどの事態となったが、参加された皆様が無事にお見送りできたのは何より。



■2013（平成25）年

2月9日（土） 建築士会活動交流会中支部大会

10回目となる建築士会活動交流会を初めて中支部の地区内、二宮町民センターにて開催した。

テーマは「高齢化社会に求められる建築とは、建築士の役割とは」、これまでの活動交流会に多かった地域性を打ち出すよりも、建築士共通の課題を改めて掘り下げる形式とした。有意義な一日となった。



3月9日（土） 小田原地方支部共催

「小田原花街の老舗巡りとグルメツアー」

前年秋に八幡山の洋館で開催した「木材塗装セミナー」に続く小田原地方支部との共催企画。

小田原宮小路の花街文化の名残と、南町のさいかち通りに残る建築群を巡る。歓楽街の中において確立された美意識が醸し出す文化に触れた。お楽しみランチは小田原グルメの「小田原丼」を賞味した。



支部活動のあゆみ この10年

2014～2015年

■2014（平成26）年

9月20日（土）3支部共催
「歴史及び現代建築を巡るバスツアー」



県央・小田原地方・中の3支部共催で行ったバス研修旅行。小田原の板橋界限、そして大磯の旧島崎藤村邸、嶋立庵、愛川の山十邸、最後は現代建築の代表、神奈川工科大学の「KAIT 工房」という順番で3支部地区の名建築群を一日かけて巡った。

懇親会は本厚木に移り、シロコロホルモンを肴に歓談を楽しんだ。

11月8日（土）秋のバス研修旅行
「西川材の故郷と吾野宿～飯能界隈を訪れる」

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通でより身近になった埼玉方面へ 2009年の川越方面以来久しぶりに訪問。首都圏で木造住宅の構造材として一定のシェアを持つ飯能吾野地区の「西川材」の搬出地として栄えた吾野宿を埼玉県建築士事務所協会入間東支部の案内で。飯能うどんのランチをはさんで午後は飯能の建具メーカー「サカモト」本社、そして日高にある「高麗神社」を巡る一日であった。



■2015（平成27）年

5月23日（土）支部総会併催講習会
「被災地相談員（キャラバン隊研修会）」

新潟中越地震、東日本大震災など、近年大地震が頻発する中で、建築士では応急危険度判定士への登録を推進している。この年の総会併催講習会では、新潟中越地震で実際ボランティアとして活動された会員の体験談を聴いていただき、今後に活かしていただけるような機会を設けさせていただいた。



10月21日（土）調査士会湘南第二支部共催
「公図・登記・測量のキモを学ぶ」

建築設計でも各種調査業務でも土地・建物の素性を知る為に登記関係図書のチェックは建築士の必須。読解上肝要な部分を土地家屋調査士に学んだ。

12月19日（土）景観整備機構委員会共催
「秦野まち歩き～十日市場の名残を訪れて」

同委員会「スクランブル調査隊」と共催で秦野市本町近辺の看板建築や商家建築を巡るまち歩きを開催。かつて商業地として栄華を放ったことを伝える街並みを知っていただく機会とした。



支部活動のあゆみ この10年

2016～2017年

■2016（平成28）年

5月28日（土）支部総会併催講習会

「けんちくラーニング・モア第二回法規編」

この年の総会併催講習会では、青年委員会に出前講習をお願いした。同委員会の委員で地盤及び基礎設計に強みを持つ山中信悟氏により、市販テキストを教材に基礎設計の基本を学んだ。

8月4日（土）調査士会湘南第二支部共催

「調査士の為の建築法規」

前年秋に続く土地家屋調査士会湘南第二支部とのコラボレーション企画の後編。調査、登記業務を行なうにあたり建築設計図書の注意点について講師及び支部三役を派遣し、講義及び質疑対応を行なった。年度跨ぎの講習であったが、有意義な企画になった。

10月15日（土）秋のバス研修旅行

「日本遺産 大山阿夫利神社・日向薬師参拝」



秋のバス研修旅行、この年は中支部の地元に皆様をお招きしよう！ということで「日本遺産」となった伊勢原の大山阿夫利神社・平成の大改修を終えた日向薬師を参拝した。

参拝の後は大山の名物豆腐料理を楽しんでもらい地元をアピールした研修旅行となった。

写真はこの頃に新型車両になった「大山ケーブルカー」の車内から。この車両はイタリアを代表する建築家のレンゾ・ピアノ氏とともに関西国際空港ターミナルビルの設計、また最近の小田急ロマンスカー車両のデザインに関わった建築家・岡部憲明氏の作品である。

■2017（平成29）年

6月22日（土）湘南支部共催「二宮魅力探訪」

JR 二宮駅から旧軽便鉄道の路線跡伝いに現在有効活用を模索中の東京大学果樹園跡地まで散策。



6月22日（金）～24日（日）

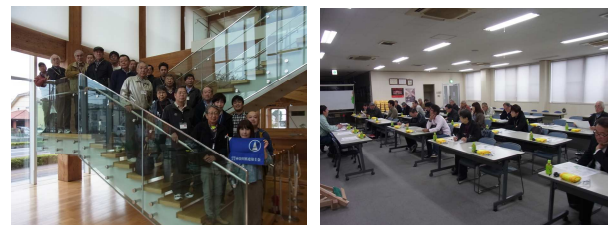
「関ブロかながわ箱根大会」

湯本富士屋ホテルにて。中支部から6名が参加。10年に一度の地元大会の盛り上げをお手伝いした。



10月18日（土）秋のバス研修旅行

「大規模木造建築とプレカット工場見学」



埼玉県越谷市のポラスグループ・ポラテック（株）本社と、茨城県坂東市にある東洋一とも目される同社のプレカット工場を見学。

改めて木造建築の可能性に触れた一日であった。

支部活動のあゆみ この10年

2018～2022年

■2018（平成30）年

1月13日（土）女性委員会・防災委員会共催 「地域防災について考えるセミナー」

女性・防災委員会主催「防災・減災について考えよう」シリーズ講習の第5回目を平塚で開催。平塚市災害対策課や防災塾からお招きした講師により地域防災や被災地における心得などを学ぶ。

後半は茶谷女性委員長（当時）のレクチャーで「折り紙建築」で平塚市役所を製作した。



9月20日（土）3支部共催 「歴史及び現代建築を巡るバスツアー」

県央・小田原地方・相模原・中の4支部共催で行ったバス研修旅行で相模原のスリーエムジャパン、城山発電所、相模川ふれあい科学館を巡った。

10月15日（土）秋のバス研修旅行 「木の故郷天竜・遠州横須賀街道」

日本三大美林の一つ、浜松市天竜区にある林業メーカー「フジイチ」と「天竜国産材事業協同組合」を訪れ製材、乾燥と木材加工の工程を見学した。

うな重の昼食をはさんで午後は10年ぶりに掛川の「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」を訪れた。

天竜では今回の計画でお世話になった静岡県建築士会浜松支部の皆さんと交流、歓談も楽しんだ。



■2019（平成31/令和1）年

3月23日（土）「平成最後の建物探訪」

「お試し会員」へのおすすめイベントとして企画、1998年見学会以来11年ぶりに旧吉田茂邸を訪れた。

5月25日（土）支部総会併催講習会 「住まいと照明のはなし」

照明器具メーカー「オーデリック」にお越しいただき、照明、照明器具の特性、選び方など設計業務の上で役立つ知識を学んだ。

10月18日（土）秋のバス研修旅行

「韮山反射炉・沼津御用邸・富士竹類植物園ほか」

この年は静岡東部、韮山反射炉・沼津御用邸・クレマチスの丘と沼津三島界隈の定番スポットを巡り改めて触れる旅を楽しんだ。

途中から雨模様となってしまったのが惜しまれるが、そんな中訪れた富士竹類植物園の竹林の香りが忙しい日常を癒してくれた。



11月16日（土）女性委員会共催

「和の空間見学会」伊勢原雨岳文庫（写真右上）

女性委員会の提案でコラボ企画となった見学会。雨岳文庫とは登録有形文化財である山口家住宅とその敷地、そして所蔵される歴史資料群の総称である。

建築的見地からも美しい造作の数々を見ることが出来る。地元に残る遺産の数々にも目を向けなければと改めて認識させていただいた。

■2020（令和2）年～現在

そして、コロナ禍の時勢へ…

上記の「和の空間見学会」を最後に、翌年2020年早々から新型コロナウイルスの感染が急激に拡大、既に計画を進めていた催しや総会講習会などもその後自粛となり、この原稿を執筆中の2022年8月も第七波の感染に苛まれています。

止まない雨はないという言葉信じ、また皆様とこうして交流できる日が到来するのを願って、本稿のめとしたいと思います。（矢野 高）

ナナメ塾ヒストリー～この10年

2012～2013年

ナナメ塾とは…1997年の関ブロ神奈川大会に参加した中支部の青年世代が、他県建築士の活動に刺激され、吉田松陰が江戸時代末期に長州萩城下の松本村で開塾した私塾「松下村塾（しょうかそんじゅく）」に因んで、そのアカデミックな精神に憧憬を抱き初代・故永田美典塾頭の元旗揚げした中支部内の青年世代サークルです。

1998年4月17日に産声を上げこれまで様々な活動をしてきました。その活動は2003年の関ブロ千葉大会にて神奈川県代表として発表した実績もあります。現在も多彩な切り口で見学会、勉強会等企画を展開中です。

■2012（平成24）年

5月29日（火）よこはまラーニング
「根岸旧柳下邸・横浜市電保存館」



封切り後横浜が舞台ということで当時話題になっていたジブリ映画「コクリコ坂から」に感化されて横浜の洋館建築を訪れたいということで近くにある横浜市電保存館の見学とともに企画。見事な造作、調度品の数々の良好な保存状態に感心させられた。横浜市電保存館ではかつて横浜市民の足として役割を担った路面電車の歴史に触れることが出来た。

8月9日（木）

「天才まっちゃんの元気が出るまどすじ講座」

以前、ナナメ塾独自のホームページがあった時代、「まどはい君」「すじはい君」の2つのフリーソフトがダウンロードできた。前者は採光・換気・排煙、後者は4分割法軸組検討ができるエクセル形式のソフトで人気があった。その作者である松山6代目支部長が使い方をレクチャーする講習会を開催した。



■2013（平成25）年

5月29日（水）よこはまラーニング
「日産自動車横浜第一号館・横浜工場」

横浜市の認定歴史的建築物になった神奈川区宝町の同社旧本社ビル（現ゲストホール）を訪れた。

わが国最初の自動車量産工場であり京浜工業地帯の発展のシンボルでもあった。現在は日産車のエンジンやサスペンション等の製造を行なっている。

「DATSUN」の時代から、日産の生き証人として歴史を刻んだ由緒ある建物、日本の自動車産業を牽引してきた息吹を雄弁に語る空間であった。

同社本社は後に東京・東銀座へ移転。さらに2009年に横浜みなとみらいに里帰りしたのは周知の通り。



6月29日（土）平塚市博物館夏期特別展
「続・地震と平塚の地盤-軟弱地盤と活断層」

前年夏に平塚市博物館で開催した夏期特別展の続編。東日本大震災以降、俄然関心が高まった活断層や地盤についての諸々。

地元の一市民として、地元根差す建築士として、講演を拝聴することにより、見聞を深め、情報量を潤沢にしておくことの大切さも同時に学んだ。

ナナメ塾ヒストリー～この10年

2014～2015年

■2014（平成26）年

5月27日（火）よこはまラーニング

「大倉山記念館」

「YOKOHAMA建築散歩」と名打ってこの企画を始めて10年目となったこの年の訪問先は「大倉山記念館」。実業家で東洋大学学長も務めた大倉邦彦が自らの研究所「大倉精神文化研究所」の建物として建設。古典主義建築の第一人者長野宇平治の設計による世界的にも希少な「プレ・ヘレニズム様式」を特徴とする。

1981年に横浜市が寄贈を受け、1984年「大倉山記念館」に改称され以後地域密着型の文化施設として市民に親しまれている。

この日は館内でフジテレビのドラマのロケが進行中だったが、その合間を縫って同研究所の平井氏にじっくり案内していただいた。



5月28日（木）よこはまラーニング

大倉山 Part2「ENEOS創エネハウス」



ENEOSとLIXILのコラボレーションで建設された創エネ機器、省エネ設備、エネルギーの「見える化」、さらに建物の性能や、リフォームといった次世代住宅の在り方を示したモデルハウスを見学。

今日の“ZEH”の時代を先取りした施設であり、特に住宅設計を主体に設計活動している参加者からは熱い視線が注がれていた。

7月5日（日）

「妙誠寺上棟式見学会」

支部幹事、内田幸夫氏の自社施工物件で愛川町にある寺院の上棟式の見学会。

寺社建築ならではの伝統的格式に基づいた上棟式を見ることが出来るのは貴重といえる。

9月19日（土）

「濱田貞夫個展表敬鑑賞会」平塚市美術館

当時の支部幹事、濱田貞夫氏（2017逝去）が趣味としていた写真（主に風景写真）の個展を鑑賞した。

とりわけお気に入りだったという富士山の四季をとらえた数々の作品が印象に残った。

この記念誌にも濱田氏がシャッターを切った写真を何葉か使わせていただきました。

■2015（平成27）年

1月30日（金）

パイロットコーポレーション平塚事業所

「蒔絵工房NAMIKI」見学会

旧第二海軍火薬廠の遺構である煉瓦造りの建物を改装、同社が大正時代に製造した蒔絵をあしらった高級万年筆をはじめ、美しい漆芸の工芸品を数多く展示している工房を見学させていただいた。

「NAMIKI」の名は同社創業者の一人である並木良輔に因んで命名されている。

ナナメ塾ヒストリー～この10年

2016～2017年

■2016（平成28）年

5月31日（火）よこはまラーニング

「旧伊藤博文金沢別邸と野島公園」



現在の岸田文雄総理より100代遡った初代内閣総理大臣・伊藤博文が横浜市金沢区に建築し、2006年に市文化財指定された別邸と野島公園内にある野島掩体壕を訪れた。掩体壕とは戦闘機を空襲から守るために作られた地下壕でその遺構としては、日本で最大級である。これも戦時の様相を伝える貴重な遺構である。金沢別邸の広縁から潮の香りと、八景島シーパラダイスのアトラクションに乗っている人の声が潮風に伝って聞こえる初夏のひと時であった。



7月5日（火）モリタ宮田工業（株）茅ヶ崎工場
パッケージ式自動消火設備 消火実験見学会

メーカー工場内の実験施設にて、同社が誇るパッケージ式自動消火設備「スプリネックス」の消火実験を見学した。

実際に火災を起こし、一気に消火。

なかなか目にするのでできない経験であった。

■2017（平成29）年

5月31日（水）よこはまラーニング

「日吉の森をめぐる」

横浜市歴史的建造物の指定となったばかりの「田邊泰孝記念館（築140年超の庄屋造りの建物）」、近接する「田邊光彰美術館」及び記念館を囲む散策路や築300年超の土蔵、目白椿山荘の庭園の設計者による池周辺を有する庭園を見学。

国際都市横浜の中に息づく日本の原風景に暫し多忙な日常を脱し心を癒すことが出来た。



■2018（平成30）年

1月21日（日）

厚木M商店見学会

吉川幹事の計らいで、知人の建築家が設計監理された店舗（酒店）兼用住宅の見学会に参加させていただいた。

綿密な打ち合わせを重ねたことの窺える、使い勝手に十分配慮した店舗部分。巧みに切り分けを行なった住居部分。設計力の高さを十分感じ取ることのできる建築であった。

ナナメ塾ヒストリー～この10年

2018～2022年

■2018（平成30）年

5月30日（水）よこはまラーニング
「横浜地方気象台・リターンズ！」

2004年5月27日に「YOKOHAMA建築散歩」第一回で訪れた横浜地方気象台が訪問後に安藤忠雄建築研究所の設計により第二庁舎の増築と本庁舎の改修を行なったことから再度訪問。

当時の思い出を反芻しながら、“安藤マジック”で生まれ変わった気象台をじっくり拝見することができた。写真は敷地内にある植物季節観測用標本（神奈川県の本標木）と集合写真。14年前と同場所にて。



12月1日（土）

「平塚北金目神社見学会」

支部幹事、内田幸夫氏のご好意で自社施工物件である神社改修工事を見学。寺社仏閣の改修工事ならではのご苦勞をうかがうことが出来た。

■2019（令和1）年

5月30日（水）よこはまラーニング
「横浜三塔めぐり」



この年は久々に建築士会周辺に戻り、いわゆる横浜三塔（開港記念会館、神奈川県庁、横浜税関）の魅力再発見と名打った。各建物ともボランティアガイドにお願いし、丁寧な解説を傾聴。特に県庁では村島正章理事にご案内していただいた。

■2020（令和2）年～現在

そして、コロナ禍の時勢へ…

実は2020年のよこはまラーニングについても、既に見学先を決定しそちらの担当者様と打合せを進めていました。しかし、新型コロナ感染拡大から、予定していた施設からも公開自粛の報に接しひとまず中止と致しました。支部活動同様、感染が収束の方向に自粛解禁の潮目がはっきりしてきたら、再び皆様とお会いしたいと思います。（矢野 高）

ナナメ塾メーリングリスト参加申込受付中

活動は自粛しておりますが、メーリングリストの参加は随時受付中です。中支部 web サイトの「中支部について」タブを開き、申込フォームへどうぞ。

「おめでとうございます」



株式会社湘南建築センター
代表取締役社長
玉村 公夫

この度は一般社団法人神奈川県建築士会・中支部の創立 70 周年誠にありがとうございます。

弊社は中支部創立に遅れること半世紀、平成 15 年 4 月に神奈川県内、特に湘南～西湘エリアの建築事業者様にスピーディな確認検査をご提供することを目的に指定確認検査機関として産声を上げました。

創業当時は平塚駅南口の小さな事務所で 10 人に満たない職員でスタートした弊社もお陰様で現在は 130 名、創立満 20 周年を迎えることが出来ました。

弊社が無事に 20 周年を迎えられましたのも神奈川県建築士会員の皆様、特に弊社が本社を構える平塚市を中心とした秦野、伊勢原、大磯、二宮など中支部会員の皆様に温かく見守って頂き、多くご利用を頂いたことが大きな支えとなったことに紙面をお借りして深く感謝、御礼申し上げます。

弊社は中支部の皆様にも少しでもご利用頂き易い機関となるべく、建築物省エネ適判や住宅性能評価、住宅瑕疵担保保険、住宅金融支援機構フラットなど、建築・住宅を取り巻く多くの法令・制度にワンストップサービスを提供できるよう体制を整え、近年は業務エリアを東京都（島しょ部以外）全域に拡大、建物規模も創業時の地上 3 階建から地上 31m 以下、延べ面積不問にまで取扱いを拡大して参りました。

今年 6 月の建築物省エネ法及び建築基準法改正に伴って予定されている建築士法改正も含め、2025 年度には建築士特例の見直し、構造計算や省エネ基準適合義務化などが施行される訳ですが、普段から研鑽を積んでいらっしゃる建築士会員の皆様にはこの変革の波は新たなビジネスチャンスとなると確信しております。

これからも神奈川県建築士会、中支部及び会員の皆様が創立 100 年を目指して益々発展されますようお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

「神奈川県建築士会

中支部 70 周年記念に寄せて」



株式会社 栄住産業
代表取締役
宇都 和光

この度は中支部創立 70 周年記念おめでとうございます。

長期に渡り貴支部がご発展、ご繁栄を続けて来られましたことを心よりお喜び申し上げます。

また、日頃より弊社の金属防水スカイプロムナードをご愛顧いただき誠にありがとうございます。

弊社におきましても木造住宅バルコニー、屋上防水さらには屋上庭園の提供を通して貴支部と関係性が構築できていますことを心より感謝申し上げます。おかげさまで「屋根の革命」の合言葉を元に、約 20,000 棟の屋上庭園をご提供させていただいております。

さて、時代の変遷と共に全産業での省力化、迅速化、効率化が求められるようになりました。

いろいろな所でもこれからは DX の時代、DX を駆使する者が業界を制するとまで言われています。それは、建築業界においても同様です。思い起こしますと以前は日数を掛け、手描きで図面を起こしていました。それが CAD に変わり便利になりました。これからは BIM (Building Information Modeling) などを活用して設計からモデリング、コスト管理、施工、維持管理に至るまでを行いメタバースを用いてクライアントに迅速かつわかり易く説明し、仮想空間でコミュニケーションもとる。そういう時代を迎えようとしています。

最近では、住宅各社のホームページを覗きましてもバーチャル展示場での表現をよく見かけます。

今後さらなるデジタル化の波が加速していく事でしょう。

弊社でも、約 5 年前から案件ごとに見積積算、リアル CG の作成、バーチャル動画の提案と作成を行い迅速に契約、受注に繋がったとお客様から高評価いただいております。

これからも弊社の目指す DX で貴会員様のお役立ちが出来れば幸いです。

終わりに、貴会の創立 70 周年に際しまして、重ねてお慶び申し上げます併せて貴会会員の皆様方のご健勝ご多幸と貴支部をはじめとする神奈川県のみすますのご発展を心よりお祈り申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

「祝、建築士会中支部 70 周年」

全農かながわ
一級建築士事務所

田中 正幸

神奈川県建築士会中支部創立 70 周年を迎え誠に
おめでとうございます。私達全農かながわ一級建築士
事務所は、JA・組合員関連施設に始まり、事務所、
店舗、営農関連施設や連合会施設等を中心に、企画
立案から設計監理を通じた多岐に渡る技術支援を実
施しております。

士会へは賛助会員として長年参加しており、当初そ
の目的は、所員への主催講習会への参加に始まり、
行政関連情報を迅速に得るなど、資質向上を目的と
しておりました。当事務所は、神奈川県内を業務エ
リアとしており、士会にて県下の建築行政や建築動
向、あるいは、建築会社の情勢を知ると共に、地域
コミュニケーションの場として、活用してまいりま
した。また、設計監理においては、その専門知識を
逐次新しく更新する事は当然として、専門外の分野
も学ぶことで、企画設計やプレゼンテーションの場
などに、役立てております。士会活動は、それらに
大いに貢献していると感じており、特に「ナナメ塾」
の世代を超えた活動は特徴的です。

コロナ禍では、コミュニケーションや情報収集等が
WEB に変わり、リアルとの歯がゆさを感じており
ますが、今後状況が回復してもその活動の場は、多
様で様々な方法が混在してくると考えられます。

より時代に即した形で、職能支援、情報提供、コミ
ュニケーションの活性化など、士会の活動に期待し
ております。翻り、世界は温暖化・異常気象・パン
デミックへの対応に始まり、建築生産に関わる諸問
題も近年大きく顕在化、課題が山積しております。
建築士には、その責任、重要性が求められており、
士会の活動の重さ、意義は益々高くなっております。
各建築関連の法人は、目的には多少の差はありますが、
建築の社会貢献としての方向性は、同じです。
合理的な協調がより各会員への利便につながります。
孔子曰く「70 にして心の欲する所に従へども矩をこ
えず」とあります。思い通りに行動しても程々に問
題ないようですから、これを機により本来の目的に
叶う組織へと発展し地域社会と共に成長するこ
とを祈念いたします。

Memo

数字で見る中支部 ～Now And Then～

ここでは 10 年前 2012 年と、現在の中支部の会員動向をお伝えします。

1. 会員数の変化の経緯

西暦 (和暦)	会員数	対 2012 年増減率
2012 (H24)	174 名	100
2013 (H25)	171 名	0.983
2014 (H26)	164 名	0.943
2015 (H27)	154 名	0.885
2016 (H28)	148 名	0.851
2017 (H29)	140 名	0.805
2018 (H30)	138 名	0.793
2019 (H31/R01)	136 名	0.782
2020 (R02)	129 名	0.741
2021 (R03)	126 名	0.724
2022 (R04)	123 名	0.707

2012 年当時と比較し、3 割の減となっています。

2. 年代別分布

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
2012	3	17	41	58	43	9	3
2022	9	6	21	32	40	19	5

年齢層のボリュームゾーンが、少々上の年代に推移しています。

3. 業種別

	2012 (H24)	2022 (R04)
建築士事務所	83	71
工務店	4	1
官公庁	2	0
不動産業	3	1
プレハブ業	2	2
建設業	45	31
建材業	0	0
建築設備業	0	0
一般企業	6	3
学校	0	0
その他	29	14
計	174	123

4. 市町村別分布

	2012 (H24)	2022 (R04)
平塚市	72	43
秦野市	43	30
伊勢原市	26	21
中郡大磯町	12	9
中郡二宮町	7	9
計	174	123

左表の推移からもお分かり頂けるように、率直に申しまして、建築士会本体もそうですが、会員の漸減傾向には歯止めが利いておりません。

2005 (平成 17) 年 11 月に発覚した構造計算書偽造問題を受けて建築士試験の受験要件を厳格化したことなどによる受験者数の減少、もともと 8 士業といわれる公認会計士、行政書士、弁護士、司法書士、土地家屋調査士、税理士、社会保険労務士、弁理士のように業界団体への加入が義務化されていないことなどもあり、建築士会の存在も業界の中ではやや軽んじられている一面も否めません。

受験者数の減少については 2019 (平成 31/令和元) 年を底に、実務経験がなくても受験資格が与えられ、実務経験を積んだ後の免許登録という方法がとれるようになったので Z 世代など若年層の受験を後押しし上向いてきていますので彼らをどう引き込むか？そして会員拡大がすべてではありません、今会員でいらして下さる皆様が建築士会に何を求めているのか、声を的確に傾聴し長らく建築士会会員としていて下さるよう工夫することもまた大切なことです。

その為の努力を、これからも進めていく所存です。また、僭越なお願いではありますが、周囲に非会員の建築士さんがいらっしゃいましたら、ぜひ入会をお勧めしていただけますと幸いです。(矢野 高)

2012 年～2022 年 物故会員

2012 (平成 24) 年度

武田 秀雄 (タケダ ヒデオ) 様

松波 耕司 (マツナミ コウジ) 様

2013 (平成 25) 年度

河野 英光 (カワノ ヒデミツ) 様

2016 (平成 28) 年度

濱田 貞夫 (ハマダ サダオ) 様

2017 (平成 29) 年度

土井 幹夫 (ドイ ミキオ) 様

2021 (令和 3) 年度

永田 美典 (ナガタ ヨシノリ) 様

長年、中支部に在籍され、支部活動にご参加、

ご協力いただきましたことに

厚く御礼申し上げますとともに

いま一度、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

どうもありがとうございました。

中支部公式ホームページ・公式 SNS のご案内

建築士会中支部公式ホームページ「中支部 ON LINE」、 公式 SNS (Facebook)、ともに更新中です！

(一社) 神奈川県建築士会 中支部では公式ホームページ「中支部 ON LINE」、
及び公式 SNS を Facebook 上において開設しております。
常に最新の情報をお届けできるよう心がけております。

どうぞお手すきの際にご覧くださいませ。

なお Facebook ではコメント欄も開放中です。友達登録、「いいね！」も宜しくお願い致します。

「中支部 ON LINE」 <http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sibu/naka/>



「中支部 Facebook」 <https://www.facebook.com/groups/877510835656767>



編集後記

Memo

年齢を重ねるごとに1日、1か月、1年が過ぎていくのが速く感じられるよ。と、よく言われます。

小生も最近そのことを、改めて実感する次第です。

今回、この10年の支部活動の、そしてナナメ塾のあゆみを文章にまとめるにあたり、毎年の総会資料の活動記録を再確認、また写真や資料をアーカイブから引っ張り出しているうちにも。

つい昨日のように思っていた出来事がもうだいぶ前のことであったという事実には驚かされます。

講師の方や見学先やバス会社に催事の詳細を交渉したり、車中で配る茶菓を買い出しに行ったり、お昼ご飯はどんなお店にしようかと調べたり…

一つ一つの出来事から当時を思い出し、つい筆が止まることも。この記念誌を手にとられた皆様には、どんな思い出が残っているのでしょうか。

手元に、20年前に発行された中支部の50周年記念誌があります。その記念誌の挨拶文が素晴らしい。

(全文は中支部 web サイトに UP されていますのでそちらをご覧ください)「手」をキーワードにしたその挨拶文の文末は「中支部を益々発展させ、100周年を迎える未来の会員に手渡す事ができれば良いと思います。」というメッセージで締められていました。

ITの、デジタルの時代とはいえ、最後に人の「手」がモノゴトの出来栄を左右するのは確かなことでしょう。この編集後記もそうかもしれません。それこそネットオークションの評価よろしく定型文が用意されていてポン！と入力すれば生成されてしまうのかもしれませんが、拙い文でもやはり血が通った、自分の心の思いを最後にしたためたい。それこそあの「手」この「手」で「手」をかけて一冊の冊子になんとかまとめたのですから。

最後となりましたが、本記念誌を発刊するにあたり、御寄稿をいただきました上原会長、長田相談役、先輩会員、賛助会員、友好団体、ふだん一緒に活動を歩んでくださる支部幹事の皆様…

そして最後まで本誌をお読みいただいた中支部会員、建築士会会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

(平原いづみ・矢野 高)



一般社団法人 神奈川建築士会 中支部
創立 70 周年記念誌

令和 4 (2022) 年 12 月 6 日 発行

編集：平原いづみ・矢野 高
ロゴデザイン：(表) 深谷美登里・(裏) 滝口喜昭

発行：一般社団法人 神奈川建築士会 中支部
(秦野市堀西 607 番地の 3 矢野建築事務所内)

印刷：有限会社 タイム 21

本書の著作権は、上記発行者が有しております。
無断転載・複写を厳に禁じます。



KPSABE NAKA BRUNCH

70th Anniversary Magazine

KANAGAWA PREFECTURE SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

NAKA BRUNCH

Since December 06,1952

<http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sibu/naka/>